

平成29年度 第13回卒業式 式辞

遠くに望む日光連山の輝きも灰かに霞みだし、春の湿り気が立ち上る頃。

本日ここに、同窓会会長様、PTA 会長様、悠友会会長様をはじめ、ご来賓の方々、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成29年度・第13回卒業式が挙行できますことは、卒業生はもとより、本校職員・在校生一同大きな喜びとするところであります。

ただ今、学悠館高等学校の全教育課程を修了した定時制124名、通信制59名の皆さんに卒業証書を授与いたしました。入学以来、たゆみない努力を重ね、こうして卒業を迎えられた皆さんに、教職員を代表し、心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様におかれましては、本日に至るまで様々なご労苦、ご心痛を重ねてこられ、お子様の卒業を迎えられたことに格別のお思いがあることと存じます。また、本日まで、本校の教育にご理解をいただき、様々な場面でご協力、ご支援下さいましたことに心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん。居並ぶ皆さんの表情からは、満足感や達成感、そしてこれから飛び出していく新たな世界への期待感が見て取れます。本校に入学した経緯、目的も違い、在籍期間、学習時間帯もそれぞれですが、共通していたのは自律的な学びが求められることです。その中で自分が決めた時間割に従って教室に足を運び、意欲をもって学び続けた成果、その象徴が卒業証書です。

数々の学校行事。クラス対抗で競った体育祭。自分の歩んでいる道を確認した生活体験発表会。協力してお客様をもてなした出藍祭。

希望者が参加した震災防災学習、寺子屋みらい、ふれあいキャンプ、体験学習、インターンシップ、遠足、進路講座、清掃ボランティア等々。

時間を生み出して練習に励んだ部活動は、過去最高の成績をあげました。

目の前の授業や様々な活動への真剣な取り組みは、皆さん一人ひとりを大きく成長させました。その折々での友人や教職員との触れ合いが、人生の航路を決める契機となった人もいることでしょう。

そして、こうした皆さんの足跡は、学悠館の伝統として息づいていくことと思います。

さて、世の中を見渡しますと、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展するようになってきています。とりわけ第4次産業革命ともいわれる、進化した人工知能が様々な判断を行ったり身近な物の働きがインターネット経由で最適化されたりする時代の到来が、私たちの生活のみならず職業や生き方そのものにも大きな影響を与えていくと考えられています。

しかし、いかに進化した人工知能でも与えられた目的の範囲内で処理を行うのであり、皆さんには、人間としての感性を働かせながら、どのような未来を作っていくのかを考えていくという大きな課題が与えられています。現在ある富や自然の恵みを使い尽くすことなく、社会を健全な状態で次の世代に引き継いでいくための知恵と行動が求められています。

す。

そして、どのような時代を迎えるにあっても、本校の生徒指標、希望、自立、共生は、皆さんの道標となるはずです。

作家の司馬遼太郎さんは、子どもたちに向けた「二十一世紀に生きる君たちへ」という文章を残しています。

「君たちは自己を確立せねばならない。自分に厳しく、相手にはやさしく、という自己を。そして、すなおでかしこい自己を」

「私は、人という文字を見るとき、しばしば感動する。ななめの画がたがいに支え合って、構成されているのである」

「自然物としての人間は、決して孤立して生きるようにはつくられていない」

「助け合うという気持ちや感情のものは、いたわりという感情である」

「私が持っていないで、君たちだけが持っている大きなものがある。未来というものである」

「君たちはつねに晴れあがった空のように、たかだかとした心を持たなければならない」

司馬さんのメッセージを拾い読むとき、私には、本校生徒指標が重なって思い起こされます。

自分を見つめ、未来の姿を描いて夢を語る心を磨く「希望」。自分の意志で決め、それをやり遂げることから始める「自立」。そして、共に生きる楽しさを感じ、他者や社会に貢献できる喜びを知る「共生」。

本日、本校を巣立って行く皆さん。皆さんの行く先々では、順風満帆とはいかないことも待ちかまえているかもしれません。しかし、皆さんが本校で学び取ったもの、本校で過ごした日々は、必ず、人生の折々で成長の糧となるものと信じます。そして、各々の目指すところに向かって羽ばたいてください。

本校の校訓「出藍」の出典である荀子の一節に、「吾嘗て跂ちて望めども、高きに登るの博く見ゆるに如かざるなり」とあります。高い山に登ったときに、初めて見ることのできる景色があります。登り続けるのだという気持ちを失わず、一生学び続けていってください。

すべての卒業生の皆さんのこれからの歩みが、幸せで豊かなものとなることを祈って、式辞といたします。

平成30年3月2日

栃木県立学悠館高等学校長 大森 亮一